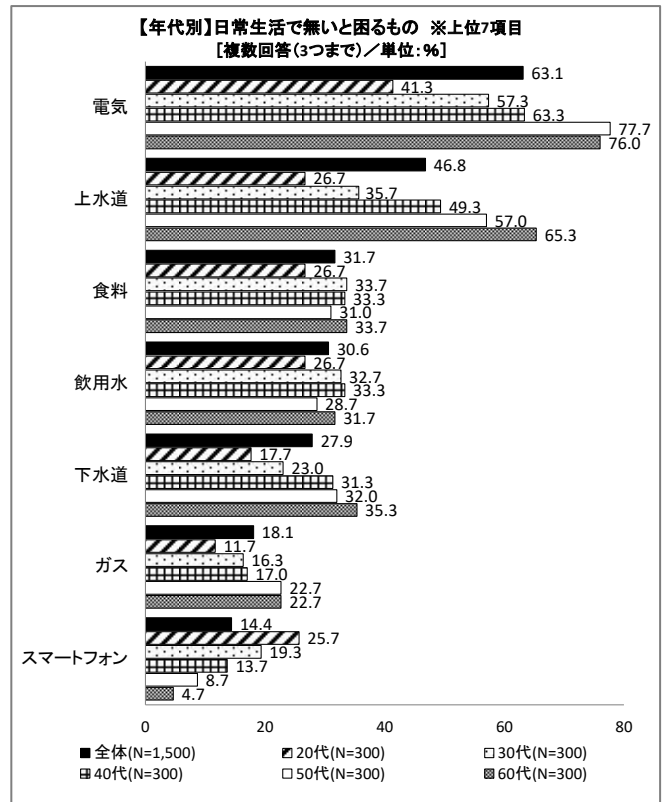
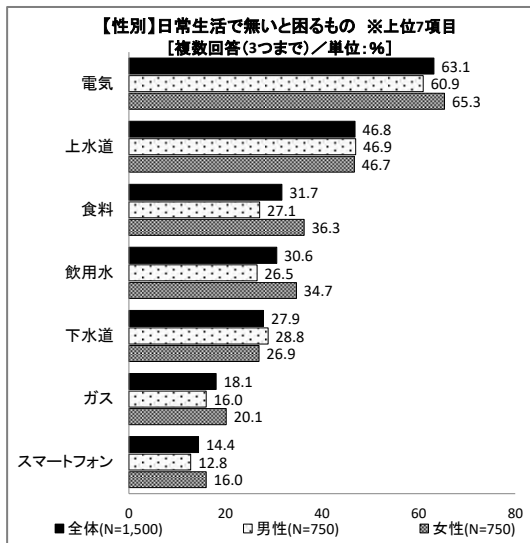


水と生活・文化

Q.日々の生活で無いと困るものは？（19択+その他+特にない）

◇無いと困るものトップ3は、1位「電気」、2位「上水道」、3位「食料」。

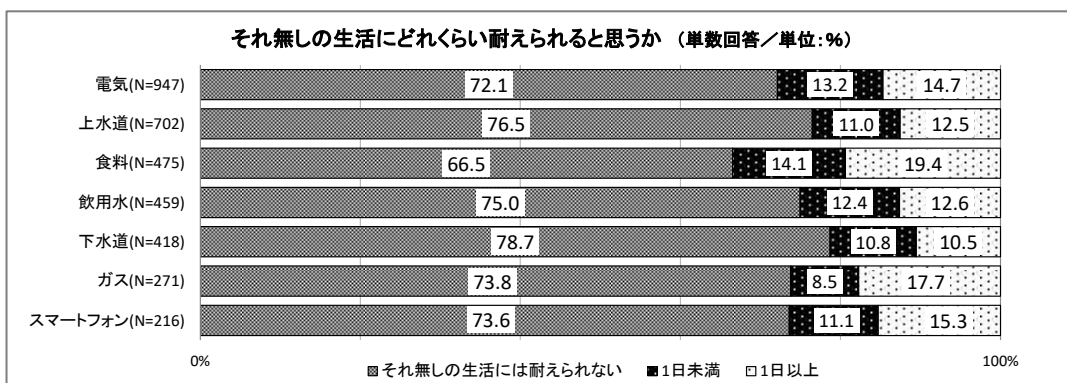
今回、生活者にとっての水の重要性を相対的に探る趣旨の新たな調査を実施。ライフライン、情報通信機器・サービス、メディア、飲食料などを選択肢にあげ、その中から3つを選んでもらう形式で、日々の生活の中で無いと困るものについてたずねたところ、「電気」（63.1%）が6割超で断然のトップ。2位「上水道」（46.8%）、3位「食料」（31.7%）、4位「飲用水」（30.6%）、5位「下水道」（27.9%）、6位「ガス」（18.1%）、7位「スマートフォン」（14.4%）と、上位7項目のうち、6位までをライフラインと飲食料が占め、それ以外は「スマートフォン」の7位が最高でした。なお、「電気」は、性別、年代別のすべてで1位、「スマートフォン」は、20代で4人に1人（25.7%）の回答があり5位となりました。



Q.それが無い生活にどれくらい耐えられると思うか？（3択）

◇「下水道」が無い生活には耐えられないと思う人が約8割。

前述の設定で選んだ各項目について、それが無い生活にどれくらい耐えられるかを、「それ無しでの生活には耐えられない」「1日未満（耐えられる時間を回答）」「1日以上（耐えられる日数を回答）」の3択でたずねたところ、上記7項目の中で「それ無しでの生活には耐えられない」の数値が最も高かったのは「下水道」の78.7%、最も低かったのは「食料」の66.5%でした。



◇耐えられる日数の平均は、最短が「飲用水」の1.6日、「スマートフォン」の3.7日が最長

上記で「1日未満」もしくは「1日以上」を選択した人が回答した時間・日数を合算して割り出した耐えられる日数の平均値は、最も短かったのが「飲用水」の1.6日（39.3時間）、最も長かったのが「スマートフォン」の3.7日（87.8時間）という結果でした。

それが無い生活に耐えられる日数(時間)の平均

電気	上水道	食料	飲用水	下水道	ガス	スマートフォン
2.3日 (55.4時間)	2.0日 (48.0時間)	1.9日 (46.0時間)	1.6日 (39.3時間)	2.2日 (53.9時間)	2.8日 (66.6時間)	3.7日 (87.8時間)

【何はなくとも】

猛暑に耐えねばならない上に、電力需給の逼迫で節電しなければならず、どのくらいエアコンを我慢しても健康が維持できるか試されている2022年の夏。早い梅雨明けで四国などでは水不足が懸念される中、梅雨の後の豪雨や台風による被害も心配される。一方で、30年前にはほとんどの人が使っていなかったのに、今ではなくてはならなくなった携帯電話の大規模な通信障害も生じて、普段はあって当たり前だが、無いと困る様々なサービスに我々の安全で快適な生活が支えられていることが改めて認識された。

そうした様々な社会的共通資本のうち、日々の生活になくてはならないサービスを3つ選ぶとしたら何か、と問われて皆さんは何を選択するだろうか。

1位は全体の約2/3の方が選んだ電気である。家庭や個人では車や暖房、調理以外のほとんどのエネルギーが電気で賄われていることを考えれば当然だろうし、風力や太陽光など再生可能エネルギー割合が増えてカーボンニュートラルな社会に向けた転換が生じるにつれ、ますます電気への依存度は高まり、その分、電気の安定供給への要求は高くなるだろう。

面白いのは、年齢別の回答である。若者がより電気に依存しているかと思いきや、50代以上の3/4が電気を選んでいるのに対して、20代では4割しか選んでいない。電気のない生活の大変さを知っているからこそ、電気のありがたみを感じているのだろうか。

2位の上水道を選んだのは半数弱の方々だが、60代の2/3が選んでいるのに対して、20代では全体の1/4と、差が大きくなっている。これも、上水道のない生活の大変さを知っているかどうかの問題だろうか。20代は、上水道が止まってもコンビニでペットボトル入りの水を買えばよいくらいに考えているのかもしれないが、飲用水は年代に関係なく選んだのは約3割の方々だけであり、手も洗えず、トイレも流せないような状況を想定したかどうか回答を分けたのだろう。

3位の食料、4位の飲用水では女性の方が選んだ割合が多い。家事労働がいまだに女性に押し付けられ、食事や水の確保が女性の責任とされている家庭がまだまだ多いのかもしれない。

各項目を選んだ方々の中では、いずれも7割程度の方々が「それ無し生活には耐えられない」と回答しているが、中でも下水道では8割程度に達している。下水道を選んだ割合の順位は5位だが、トイレや雑排水を流せない生活の質の低下、あるいは水洗式ではないトイレの居心地の悪さをご存じの方々の回答なのだろうか。やはり年齢が上がるに連れて下水道を選んだ方が多くなっている。

逆に、食料を選んだ方の中で「それ無し生活には耐えられない」と回答した方は2/3で一番低い。飽食の時代、食料がずっとないのは困るが、数日であればむしろ痩身につながる、と思う方もいる、ということなのかもしれない。

スマートフォンを選んだ方はわずかに全体の1/7であり、ガスについて7位。20代では4人に1人が選択しているのに対して、60代では20人に1人。上位のうちでは耐えられる日数もダントツで長く、4日近くに及ぶ。スマートフォンが無いと困るが、いざとなったらなくとも平気だ、と置いていらっしゃる方がまだまだ多いことがうかがわれる。

Q.知っている祝日・記念日は？ (9択+知っているものはない)

◇「水の日」の認知率が過去最高を更新。

水や自然にかかわる祝日・記念日の認知は、昨年、「水の日（8月1日）」の認知率が本設問の調査を開始した2016年以来、最も高い数値（4.7%）でしたが、今年はさらに2.7ポイント上積みされ7.4%となり、過去最高値を更新しました。また、「世界水の日（3月22日）」（4.9%）や「下水道の日（9月10日）」（2.9%）についても、それぞれ僅かながら上昇しました。当センターとしては、今後も「水の文化」に関するより一層の普及・啓発に取り組むとともに、その取り組みが、こうした水にかかわる記念日などの認知向上の一助になることを願っています。

